

防災だより

平成 27 年 2 月第 30 号
下田市地域防災課防災係
Tel.0558-36-4145

■津波避難計画地図作成のための説明会を実施しました。

1月19日から2月4日の間、各地区において津波避難計画地図作成のための説明会を実施しました。浸水域や道路が示された地図に、実情を熟知している地元住民の方々の意見が書き込まれ、精度の高い地図を作るための情報収集に非常に役立ちました。ご協力ありがとうございました。



■津波避難計画の報告会を実施します。

集まった情報を掲載した地図の報告会を下記日程にて実施します。また、集まった道の情報を反映した最終のシミュレーション結果も合わせて報告します。

各地区の自主防災会長、防災委員、区長、組長など多くの皆様の積極的な参加をお願いいたします。

地区名	日時	場所
下田・稲生沢	3月10日（火）19:00～	市民文化会館 大会議室
浜崎・白浜	3月11日（水）19:00～	市民文化会館 大会議室
朝日	3月12日（木）19:00～	市民文化会館 大会議室

大規模地震が起きた時に、最も怖いのは火災といえます。

「もし火がでたら」を考え、家のどこに「火の元」があるのか確認するなど、防火対策を講じておくことが大切です。

また、地域で行われる防災訓練にも参加し、近隣の住民と協力して防火対策に取り組み、防火対策の知識を深めましょう。

◆日頃からできる火災予防

※出典(静岡県地震防災センター)

地震による火災は被害を拡大します。火災は「出して消すより、出さないこと」です。日頃から火を使うところには消火器や消火用の水を用意し、万一火が出てもすぐ消せる準備をしておきましょう。

また、防災訓練などで、消火器の使い方を身につけておくことが大切です。

火が天井まで燃え広がったら一人で消すことは無理です。天井に燃え移るまでの3分から5分のわずかな時間が自分で消火できるチャンスです。素早く火を消すよう心がけましょう。火を消すには消火器や水のほか、濡れたシーツ、毛布、布団なども役に立ちます。

- 石油ストーブは必ず「対震自動消火装置付」のものを使用しましょう。
- 灯油、食用油など燃えやすいものは簡単に倒れないようにし、火元から、十分に離しておきましょう。(火器の上や周りには置かないようにしましょう。)
- 石油ストーブなどの近くに倒れやすい家具類を置かないようにしましょう。
- 消火器やバケツを火を使うところに用意しておきましょう。また、風呂の水はいつもためておくように心がけましょう。
- 消火器や消火器具は見やすく取り出しやすい場所に置くようにしましょう。
- ガスの元栓、電気ブレーカーの位置は家族全員で確認しましょう。操作方法も熟知しておきましょう。

チェックしましょう!!

阪神・淡路大震災では電気が復旧したときに火災が発生した事例があります。

避難などで家を空けるときは、ブレーカーを必ず落として行きましょう。

万一、自宅や近隣で火災が発生した場合は、できる限り迅速な消火活動が必要です。初期消火は数分間対応しなければなりません。初期消火に備えた資機材の用意や自分自身のとるべき行動をイメージしましょう。

初期消火ができない規模の火災に拡大し、延焼火災の危険性が生じた場合は、近隣住民の避難が必要となります。自らが率先して避難を呼び掛けましょう。

